

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
自ら学び、自ら行動する、心豊かな岩松っ子の育成	① 地域に開かれた信頼される学校運営 ② 確かな学力の定着 ③ 豊かな心と健やかな体の育成

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① 地域に開かれた信頼される学校運営							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	教育目標・方針等の周知、学校情報の提供	・教職員、保護者、学校評議員、地域への周知を図り、認知度90%以上をめざす。 ・学校の情報がわかると感じる保護者の割合を85%以上にする。	・教職員は職員会議で、学校評議員は学校評議員会で、保護者・地域の方々は育友会総会、HP、学校便り等で説明やお知らせをする。 ・岩松校区青少健の会議や活動の中で学校の教育活動を広報し、支援と協力を得る。	A	・保護者アンケートでは「学校教育目標や教育方針を伝えている」の肯定的評価(「思う」「だいたい思う」の計)が93%であり、目標を達成した。 ・学校便りは、月に2号平均発行し、児童の様子、家庭へ伝えたいこと、学校経営方針の取り組み、学校行事の報告などを掲載した。 ・学校評議員会は各学期ごとに計3回開催して運営状況を説明し、意見交換等を行って、支援と協力を得た。 ・HPは、教育計画、学校評価、岩松寺子屋関係など計画的にアップした。	・学校評価アンケートの「思う」の割合を向上させなければならない。 ・学校便りの改良、HPの充実、地域会合等での発信など、保護者、地域への学校情報、学校経営方針、行事についてなど情報発信に力をいれる。
	○危機管理	児童の安全・安心の確立	・児童の交通事故発生を0にする。 ・年4回の避難訓練を実施し、児童及び職員の防災意識を高め、適切な避難行動ができるようにする。 ・安全・安心に配慮した教育活動が実践されていると感じる保護者の割合を85%以上にする。	・緊急時対応マニュアルを見直し、実態に即したものに更新する。 ・学校安全計画を基に安全教育を進め、安全指導を確実に実践していく。実効性のある避難訓練を実施する。 ・毎月の安全点検を確実に実施する。	A	・アンケート結果で93%の肯定的評価を得ることができた。 交通事故の発生0が達成できた。 ・避難訓練は計画に沿った運営ができ、児童の意識の向上に役立った。 ・毎月の安全点検のみならず、日頃から職員の小さな気付きを出し合い、迅速な対応に努めたことにより、事故の未然防止につながった。 ・セーフティネット会議等で校区内の通学路の危険箇所について情報を収集し、職員間で情報を共有することにより、指導の徹底が図れた。	・より真剣で、非常時を想定した避難訓練を行う必要がある。 ・自然災害の時など、保護者の迎えが必要になった場合の引き渡しのマニュアルを教職員と保護者が共有しておく必要がある。
	○開かれた学校	地域の教育力を活用した体験活動の充実	・地域の教育力を活かし継続的に取り組んでいくことで、体験活動の成果が上がっていると感じる保護者の割合を90%以上とする。	・総合的な学習、生活科の年間計画に地域性を活かした体験活動を位置付け、活動の様子をお便りや掲示板などで発信していく。 ・岩松寺子屋と岩松検定を実施する。 ・野菜作り(1・2年 もも)そば打ち、羊羹作り(4年)ホタルの飼育体験(5年)田植え・稲刈り体験(5・6年)	A	・アンケートでは97%の保護者、96%の児童、93%の職員が肯定的に評価している。 ・総合的な学習の時間や生活科において、地域の優れた教育力を活用した、充実した体験活動ができている。 ・外国語活動の増進等により、授業時数確保が難しくなってきたため、内容の精選を行い、より計画的に活動を進めることができた。	・平成31年度は、さらに時数確保が厳しくなるため、それぞれの活動について、継続、見直し、中止等の検討をする必要がある。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進・業務効率化の推進	・「教職員の連携」についての教職員の肯定的評価を80%以上にする。 ・毎月の時間外勤務の全職員平均を45時間以下にする。	・報告・連絡・相談を徹底するとともに、四部会を中心として各担当の連携を密にし、職員間のフォロー体制を強化する。 ・校務支援システムの機能を活用し、連絡会や諸会議の時間短縮を図る。 ・行事・企画の精選、業務の効率化と分散化の視点を持ち、校務全体を見直す。	B	・職員アンケートでは93%が職員間の連携について肯定的に回答している。毎月の時間外勤務は職員全体の平均(4~1月)は30.8時間であり、目標値をクリアしたが、個人差が大きい。 ・年間10回の四部会が機能しており、指導方針の共有、企画等の事前調整を組織的に行い、職員間の意識共有ができたことにより、連携を図ることができた。 ・校内衛生委員会や「働きやすい職場環境づくり」アンケートでの意見をもとに改善点の洗い出しができた。	・定時退勤日の実効性を上げる工夫を検討する。 ・業務の効率化につなげるため、業務用パソコンの更新をはじめ、職場環境の整備が課題であるので、市教委との課題共有、改善に努める。 ・校務分掌の見直し、業務の精選、学校行事・地域連携活動等の精選について検討を進める。

② 確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	児童の基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・全国、佐賀県学習状況調査(4～6年)における結果が、本県平均と同等にあること。 ・CRT(1～3年)の結果が全国平均と同等にあること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチタイム、習熟タイムを着実に実施し、「話す・聞く」能力の向上と基礎基本のスキルアップを図る。 ・家庭学習の充実を図るため、家学(家庭学習)週間を学期毎に設け、学年に応じた家庭学習の時間の達成に取り組む。 ・「岩松小学校学習スタンダード」の指導を継続し、落ち着いて学習に取り組む学習習慣の定着を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査結果では、県平均とほぼ同等の位置にある。5年算数では、9割以上の児童が「おもしろい」と振り返り、学力も伸びている。6年国語では、言語理解や読解力に伸びが見られ、書く能力については県平均を上回るなど、伸びが見られた。また、8割以上の児童が「授業で自分の考えを書いたり話したりしている」と答え、主体的に表現しようとしている姿が伺われる。 ・家学週間では、全学年で学年の目標時間を達成し、自学内容の工夫が見られた。また、保護者も、8割以上が、家庭学習をきちんとしていると評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査の結果からは、基礎的基本的な知識理解や技能の定着に課題のある児童も見受けられることから、スモールステップを踏んで定着度チェックを行い、児童の実態に応じた補充指導を充実させる。 ・よりよい家庭学習の形成も同時に推進する。
	教育の質の向上に向けた校内研究の推進	教職員の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な学びにつなげるため、子どもの見方や考えをいかした単元計画の策定と「学び合い活動」「振り返り」の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会での研究方針の共通理解を図る。 ・振り返りと児童の見方・考え方を効果的に活用した授業を実践する。 ・「学び合い活動」の土台となる話す・聞く力を高めるスピーチタイムを実践する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間にわたる国語科の学習指導を通じて、到達基準「十分達成」を基準とした本校の正答率は、右肩上がり向上している。特に「書く」「知識・理解・技能」「読む」「活用」に関する問題の正答率が向上している。また、「語句に関する知識」及び「活用」は、県基準を超えるようになった。 ・資質・能力を育む国語科の授業の考え方について、理解を深め、授業実践に取り組むことができた。 ・「つける力」と「学習課題」、「問いの文」、「言語活動」を明確にした単元の学習計画を立て、学び合いと振り返りを取り入れた学習スタイルに取り組みせることで学力が向上してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが考える国語を学ぶ楽しさと教師が考えるそれに、ずれがある。国語を学ぶ楽しさを実感させながら、国語科における思考力・表現力を高めるための方策について探っていく。 ・引き続き語彙指導とスピーチタイムの充実を努めていく。
	読書活動	読書活動の推進ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と連携し、児童一人当たりの貸出数を150冊以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書ボランティアによる読み聞かせを実施する。 ・魅力ある図書館にするためのイベントなどを工夫する。 ・本の紹介コーナーの掲示を充実する。 ・読書リレーを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果では、児童の77%、保護者の75%が肯定的に評価している。 ・1月時点で、児童一人平均年間166.09冊の貸出があり、目標の150冊は達成している。 ・イベントを行った月の貸出は多い。 ・先生たちの読み聞かせや委員会発表「ビブリオバトル」などで紹介された本や新しい本の予約が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの時に呼び込みなどをして、図書館にまず来てもらえるように工夫していく。 ・家庭にも協力してもらい、読書リレーが一週間交代でまわせるように、クラスでも呼びかけてもらう。 ・図書館の行方不明の本が今年度10冊あった。図書館利用のマナーについても指導を徹底したい。

③ 豊かな心と健やかな体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	●心の教育1	学ぶ喜びをもち、認め合い支え合う学級・学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上にする。 ・学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生徒指導会で児童の実態を把握し、指導方針を全職員で共通理解した上で、指導にあたる。本年度は特に、①挨拶 ②言葉づかい(友達の名前に「さん」「くん」を付ける) ③室内での過ごし方について重点的に指導する。 ・児童に出番や役割を与え承認していく機会を増やすことで、自己肯定感を高めながら支持的風土を醸成していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しいと感じる」と答えた児童が88%、保護者アンケートでは94%だった。 ・適宜指導・啓発を行うことで大きな生活指導上の問題はなかった。「さん、くん」を付けて呼び合うことができた。 ・「生徒指導会」により、職員間で指導事項や課題についての共通理解を図り、その上で「全校集会」「全校学活」等の共通指導・振り返りの場を設けたことで、全校児童及び職員の意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「語先後礼」のあいさつの再徹底のため、あいさつ運動など高学年が手本を示す。 ・家庭との連携が難しい事項が多い。

教育活動

●心の教育2	自問清掃の取組を通した児童の変容	・自問清掃を頑張っていると感じている児童の割合を85%以上とする。	・校内に自問清掃の掲示コーナーを設け、児童の清掃の様子を掲示し掃除に対する啓発を図り、自発性や自立心を図る。 ・「がまん日記」を書かせ、それを基に指導を続け定着させていく。	B	・「がまん掃除や見つけ掃除ができています」と答えた児童が88%だった。「がまん玉・見つけ玉」を意識して掃除している児童が多い。 ・高学年を中心に「感謝そうじ・正直そうじ」に取り組んだので、担任がいない所でも自分に正直に「自問清掃」に取り組むことができた児童が増えた。 ・集会や研修等、時間の確保に限界があり、教師間での情報共有や、「がまん」の徹底が難しく、なかなか全校での重点的な取り組みにできなかった。がまん日記に取り組むことができなかった学年もある。	・本校の特色ある取組の一つであるという位置づけのもと、来年度以降も、心の教育の一環として取り組みを続けていく。
●いじめ問題への対応	児童の人権感覚の向上、いじめや差別のない学級・学校づくり	・児童アンケートで、「いじめ0宣言を守っている」と答える児童を90%以上にする。 ・保護者アンケートで、「いじめ防止の取り組みの成果が出ていると思うか」の問いに、「思う・だいたい思う」を合わせて85%以上にする。	・人権教室で、それぞれの学年に応じた話やエンカウンターを全職員で行い、児童一人一人の居場所づくりに努め、自己肯定感を高める。 ・「〇月の心」やQ-Uテスト、教育相談週間において、児童の実態を把握し、必要な対応を探りながら進める。	B	・児童アンケートでは93%が肯定的に評価しているが、自分のことを客観的に見ることができていないと感じる。こそこそ話、仲間はずれ、ちくちく言葉がなくなる。頭では分かっているが、行動に移せない児童がいる。 ・保護者アンケートの肯定的評価は78%だった。 ・人権教室を予定通り行い、全職員が子どもたちに伝えたいメッセージを伝え、児童の心に響かせることができた。 ・教育相談の時間が十分にとれない。	・教師自身の人権感覚をさらに高め、人権を無視した行動があれば全職員でその都度対応していく。 ・保護者に、お便り等で、人権教室の取り組みや児童の感想を紹介し、家庭の教育力を高めたい。
○特別活動	自主的実践的な児童会活動	・委員会活動や係活動で自分の役割を果たしていると感じる児童の割合を80%以上にする。	・児童集会や代表委員会、委員会活動で、一人ひとりに役割をつくり、活動する機会を保障する。 ・児童の思いや考えを生かした活動を大切にする。	A	・学校評価アンケートの結果と、児童の「委員会活動 1年間の反省」から、自分の役割を果たしたと感じている児童が91%いた。 ・昨年度までにはなかった活動(たてわりウォークラリー、長縄大会、委員会のお仕事体験)により、全校児童で共通の楽しみが持てた。上学年の児童は人前に立つ機会が増えたことで自信を持った子どもが多かった。 ・すこやかタイムは、どの委員会も工夫された内容・発表でよかった。みんなの前に出ることで、自信を持てた子どもが多く、その後の他の場面でも生かされるようになった。	・わんぱくタイムの回数を徐々に増やす。外遊びの内容の充実を図る。 ・すこやかタイムを精選する。 ・活動後、ふり返りの時間を設ける。(活動を価値づけ、友だちの頑張りや自分の思い、課題を整理する。また、みんなの前で発表することで、教室だけではなく全校の前で思いを伝えられるような児童を増やしていきたい。)
○特別支援教育の充実	特別支援教育体制の確立と充実	・校内教育支援委員会を通して、対象児童の共通理解を図り、よりよい支援体制づくりをめざす。 ・対象児童の個別の教育支援計画・指導計画の作成率を100%にする。	・校内教育支援委員会を設置し、状況に応じた校内支援体制をつくり、対象児童への支援を行う。 ・子どもの特性の理解と具体的な支援についての校内研修を実施する。 ・対象児童の個別の教育支援計画・指導計画を確実に作成する。	B	・教師のアンケート「対象児童への支援を全校的に共通理解し、個別の指導計画や校内支援体制に基づいて支援に取り組んでいる」の結果では、思うが27%、大体思うが73%であった。 ・支援を要する児童について、その都度対応を考えてきた。さらに教育支援委員会のメンバーで話し合い、対応策を考えることができた。 ・小城市支援センター、病院の先生など、関係機関との連携をとりながら、児童についての情報交換を行った。	・気になる児童については、保護者にも現状を伝えるとともに、担任だけでなく複数の目で対応を考えていく。 ・入級児童には、今年度のうちに保護者の考えを聞き、来年度につなげられるようにする。
●健康・体づくり1	規則正しい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の定着と健康な体づくり	・睡眠時間の確保(決められた時間に寝ている児童を60%以上にする) ・朝食喫食率及び食事の質の向上(朝食を毎日食べる児童の割合を95%以上にする。)	・「健康アンケート」により実態把握をし、適宜養護教諭、栄養教諭を中心に規則正しい生活習慣や食育に関する指導を推進する。 ・集計結果等をお便りとして発行したり、給食試食会で話をする場を設定したりして家庭との連携を図る。	B	・健康アンケートの結果、朝食喫食率は、96%→98%と目標値を達成した。朝食の内容(質)では、バランスの良い内容が48%→59%と改善傾向がみられた。睡眠は、就寝時間を守った児童は58%→36.5%と目標値から下回った。 ・全校児童を対象に「早ね、早起き、朝ごはん」について4月に養護教諭、栄養教諭、6月は校長より睡眠についての講話を行い、生活リズムの大切さと岩松小の現状を伝えた。その結果、睡眠については決められた時間に就寝する児童は比較的多かった。 ・参観日に授業を設定し親子で学習したり、家庭科の授業で栄養教諭とTTの授業を行ったりしたことで、朝食の喫食率も朝食内容の質も向上がみられた。	・全体的に就寝時間が遅く、特に高学年では、睡眠時間の確保ができていない児童が多くみられる。発達段階に応じた保健・食育指導を養護教諭と栄養教諭で連携し引き続き実施をしていきたい。 ・生活習慣の改善については家庭との連携が特に重要なため、保護者への啓発活動(便りの発行・試食会、フリー参観などの授業設定)をアンケートの結果を活用し情報提供を引き続き行う。

	●健康・体づくり2	体力・運動能力の増進	・全校児童の体力向上を目指す。外遊びの割合、春70%以上、冬50%以上を目標とする。	・外遊びで使用する道具を使いやすいように準備する。 ・スポーツテストの実施方法や記録を伸ばすコツを目に見える形で提示する。 ・朝や業間の時間を使い、ラジオ体操やなわとび週間、マラソン週間を実施する。 ・マラソンタイムで長い距離を走った児童を表彰する。	B	・スポーツテストの結果を見ると、全学年それぞれ体力が上がってきている。一昨年度から課題とされている、20mシャトルランのTスコアでは3学年で50を超えた。 ・児童に企画をさせ、楽しく、体力をあげられる方法を探した。道具作りや会の進行など、児童は意欲的に取り組むことができた。 ・代表委員会で決定した学級対抗長縄大会を実施した。当日までの練習があまり盛り上がっていませんでしたので、事前の声かけを積極的に行う必要があった。	・インフルエンザが流行する前に、体を動かす習慣を身につけさせることが大切だと考える。マラソンタイムの実施時期を検討したい。マラソンタイムを実施することで、外で遊ぶ児童が増えているので、委員会の企画を考えたい。
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策

4 本年度のまとめ・次年度の取組

保護者アンケートに関しては、「思う」「大体思う」を合わせた肯定的評価がほとんどの項目で80%を超えていることから学校への理解が得られていると考えられる。

今年度、特に保護者や児童アンケートの評価が高かった項目は、「開かれた学校づくり」「危機管理」「心の教育①」「体力づくり」であった。

一方、「読書活動」「健康・体づくり」「いじめ問題への対応」については保護者アンケートの評価が比較的低いという結果であった。学力の基盤ともなる読書の推進については、「読書リレー」など家庭も巻き込んだ本校独自の取組を大切にしながら、読書の質の高まりを目指していきたい。また、規則正しい生活習慣については、家庭でも課題を感じていることが窺える。「いじめ問題」については、児童の人間関係の脆弱さ、SNSなどインターネット利用に絡む問題の表出等により、保護者にとっても根深い不安感があると推察される。次年度に向けて、こういった課題を学校が家庭、地域と共有し、それぞれの立場でできることを探りながら取組を継続、発展させていきたいと考える。

今後、「社会に開かれた教育課程」として、家庭や地域との協働がますます求められる。家庭や地域に広く情報を発信し、連携を深めていかなければならない。本校の特色でもある地域の教育力を生かしながら、安心・安全な学校づくり、豊かな心と健やかな体の育成に向けての取組を進めていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目